ベラルーシ公開情報取りまとめ

(7月18日～7月24日)

2022年8月22日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- 国際民間航空機関(ICAO)は、ライアンエア機強制着陸事件の捜査報告書に関する協議の結果、同事件の責任はベラルーシ当局にあると認定(7/18)
- ルカシェンコ大統領による仏AFP通信へのインタビュー(7/21)
- 刑事訴訟法の改正により、本人不在で判決可能に(7/21)
- ベラルーシ・ロシア両国首脳電話会談(7/22)

【ルカシェンコ大統領動静】

●仏AFP通信へのインタビュー

大統領は要旨以下を述べた。

- ・ベラルーシ駐留ロシア軍は、ルカシェンコ大統領の招聘に基づいて来ており、彼らのベラルーシ国内の行動は全てルカシェンコ大統領も承知の上でのもの。それゆえ、ロシア軍がベラルーシの主権や独立を侵害しているというのは不適切。
- ・ライアンエア機強制着陸事件の調査報告は改ざんされている。
- ・ベラルーシはロシアのウクライナ侵略に参加しているが、傷病者に対するベラルーシ国内での治療や、ベラルーシ南西部の防備を固めてロシア軍が背後から攻撃されないようにする等、後方からの援護を実施しており、戦闘には参加していない。
- ・ロシアのウクライナ侵略へのベラルーシ軍の参戦には、必要性も意味もない。
- ・ウクライナ東部の自称「人民共和国」やロシアによるクリミア併合を公式には承認していないのは、その必要性も意義もないため。これらの地域とは協力しており、事実上、あるがままを認めている。
- ・核兵器はロシアにあればそれで十分。必要であれば、ロシアは条約に基づき、ベラルーシを自国領として守ることになる。ベラルーシの地で西側とロシアが軍事的に衝突することなど望んではいない。

(7月21日 大統領府)

●ベルギー独立記念日に寄せた祝電

- ・ cholnoyevyri 原発事故で被災したベラルーシの子どものための保養に関する人道支援や数多くの支援プログラムに感謝。
- ・今日では、全世界が深刻な脅威に直面しているが、いかなる政治的対立も、友好的な関係の強固な基盤を損なうことはできない。ベラルーシは一貫して、ベルギーとの相互に尊重し合うパートナーとしての接触をあらゆるレベルで進展させることに賛成。

(7月21日 大統領府)

●ベラルーシ・ロシア両国首脳電話会談

- ・二国間協力を主に協議。
- ・輸入代替に関する具体的なプロジェクトを含む経済分野における基本的な問題全般を協議。
- ・国際的な当面の課題についても協議。特にプーチン露大統領からルカシェンコ大統領に、テヘランで行われたロシア・イラン首脳会談につき情報共有あり。
- ・ルカシェンコ大統領はプーチン露大統領に、ベラルーシの航空会社に対する支持につき謝意を表明(当館注:7月18日の国際民間航空機関(ICAO)でのライアンエア機強制着陸事件の報告書の審議にあたり、ロシアがベラルーシの立場を支持したことを指すと思われる)。
- ・両大統領は、新たな駐露ベラルーシ大使の任命の件で合意。セマシコ現駐露ベラルーシ大使の後任には、クルトイ大統領府副長官が就任予定。

(7月22日 大統領府)

●エジプト革命記念日に寄せた祝電

・エジプトはエルシーシ大統領の指導の下で、持続的な発展と高い生活水準の向上や高い経済成長の実現に向けた社会的プログラムを実施する点で著しい成功を収めてきた。

・ベラルーシはエジプトを、アフリカ大陸における最も重要かつ影響力のあるパートナーとみなしており、エジプトとの関係に大いに注意を払っている。

(7月23日 大統領府)

●ベラルーシ・ウズベキスタン両国首脳電話会談

・ベラルーシ・ウズベキスタンの連携に関し、二国間だけでなく多国間のフォーマットを通じたものも含め、総合的に協議。

・ベラルーシはウズベキスタンを中央アジア地域における枢要なパートナーと認識しており、ウズベキスタンの経済をユーラシア経済同盟(EAEU)に完全なフォーマットで組み込めるようにすることにより、EAEUにおいてウズベキスタンを全面的に支持する用意あり。

・席上、ベラルーシの上海協力機構(SCO)への加盟申請に対するウズベキスタンによる支持についても言及あり。

・今後の協力の進展に関し、両国それぞれの市場で必要とされている製品の取扱増加、協力の拡大、新たな両国共同生産事業の創出といったことが強調された。両大統領は、連携の深化にかかる具体的な方向性の協議を、本年9月にサマルカンドで開催予定のSCO首脳会談での会合の際に協議することで合意。

・カラカラパクスタン情勢も議題となり、同地で生じた出来事につき意見交換。

(7月24日 大統領府)

【外交】

●国際民間航空機関(ICAO)による、ライアンエアー機強制着陸事件の最終報告書を巡る動き

(1)7月18日、フラナク・ヴァチャオルカ・チハノフスカヤ民主勢力代表顧問(外交問題担当)は要旨以下を述べた。

・7月18日、ICAOは、2021年5月23日に発生した

ライアンエアー機のミンスク着陸事件の捜査報告書に関する協議の結果、同事件の責任はベラルーシ当局にあると認定。

・ライアンエアー機の強制着陸に直接関与し、事の顛末を目撃していた重要参考人の証言が、同事件の責任者を特定する上で重要な役割を果たし、報告書にも組み入れられた。

(2)7月20日、シコルスキー運輸・交通省航空局長は要旨以下を述べた。

・ICAOの報告書は、ICAOのロシア代表兼ICAO理事からも指弾されているとおり、幾つもの誤りや不正確さ、航空分野と関係がなく客観的でもないアプローチが見られる。

・本件報告書は本年1月には既に準備されていたものの、西側諸国の圧力によりさらなる調査が進められたが、ベラルーシに追加情報を求めることなく、米国やポーランドの情報を鵜呑みにした内容に成り下がってしまった。

(3)7月28日、ベラルーシ外務省は要旨以下の生命を公表。

・ICAOの最終報告書の結論には断じて賛成できない。同報告書には、欠落や辻褃の合わない箇所が無数にある。

・ビリニュス空港ではなく、ミンスク空港に着陸すると決めたのは、他ならぬ操縦士ら自身であるにもかかわらず、操縦士らへの聴き取りに関する資料が欠落。

・操縦士らは、操縦室内の会話の記録を消すというようなことをしでかした。

・本件に関係する主要国の多くが情報提供を拒否。

・ベラルーシ当局に責任があることを裏付けるとされる、いわゆるキーパーソンによる証言に関し、この証人が一体誰なのか、その証言が真正かどうか不明。

・ICAOの報告書では、ベラルーシの空域内での軍用機による着陸強制は認定されておらず、まさに同機の乗員が自らミンスクへの着陸を決定。

(4)ヴェリチコ外務省多国間外交総局長は要旨以下を述べた。

・ベラルーシは、ライアンエアー機強制着陸事件に関するICAOの調査報告書の公表を受け、自国の立場

に関し、全国連加盟国やグテーレス国連事務総長等に対する広報を実施。

・今後も国際機関を通じ、同報告書の結論が受け入れられないこと、ベラルーシに罪はないことを一貫して粘り強く示し続ける。

(7月18日 BPN、7月20日 国営ベルタ通信、7月28日 外務省、7月29日 国営ベルタ通信)

●オーフス条約からの脱退

7月18日、ルカシェンコ大統領は「環境問題における情報へのアクセス、意思決定への市民参加及び司法へのアクセスに関する条約(オーフス条約)」からの脱退に関する大統領指示に署名。

(7月18日 大統領府)

●外務省での在外公館長向けセミナーの開催

マケイ外務大臣は、大統領の決定を履行するにあたり、率先して粘り強くあるよう訓示。

(7月18日 外務省)

●クレバ・ウクライナ外務大臣のインタビュー

クレバ大臣はベラルーシに関し要旨以下を述べた。

・ベラルーシ軍がウクライナ国境を侵犯するようなことがあれば、ベラルーシとの外交関係を断絶する。

・ベラルーシが侵略の共犯者であることは、誰にも疑問の余地がない。

・ベラルーシ経由での穀物輸出は、他の方法がいつでも機能しない場合、最後の希望として検討され得る。

・侵略の共犯者であるベラルーシ政府と協力することなど、どのような交易上の問題であっても、誰にとっても望ましくはない。

・穀物の海上輸送に向けた交渉が進んでいるが、ベラルーシ経由の穀物輸出は議題になっていない。

(7月18日 Forbes、BPN)

【内政】

●刑事訴訟法の改正により、本人不在で判決可能に

・被告が国外にあり、出頭を望まない場合でも、本人不在で判決が下せるようになる。

・テロリズム、国家反逆、破壊活動、「過激主義」の形成、大規模騒擾、ベラルーシに対する制裁の呼びかけ等で告訴された被告で、外国が引き渡しを拒否している人物が対象。

(7月21日 大統領府、Zerkalo)

【経済】

●国際的な信用格付機関によるベラルーシの格付

(1) Standard & Poor's

・7月16日、ベラルーシの外貨建て格付けを「CC/C」のまま据え置き。

・30日間の猶予期間中に、米ドル建てユーロ債に関する支払いが米ドルで行われない場合、格付けが「選択的債務不履行」に引き下げとなる可能性あり。

・ベラルーシの自国通貨建てソブリン格付けを、「見通しネガティブ」と判定。

(2) Fitch Ratings

・7月18日、長期外貨建て発行体としての格付けを「C」から「RD (Restricted Default 部分的債務不履行)」に引き下げ。

・長期自国通貨建て発行体としての格付けは、「CCC (債務不履行の恐れあり)」のまま据え置き。ベラルーシ政府は自国通貨建て国債の利払いを続けており、自国通貨建て国債に関して債務不履行となるリスクはない。

(7月16日 ロイター通信、7月18日 Fitch Ratings)

●2022年上半期の国内総生産(GDP): 前年同期比

▲4.2%

	実績	(USD 相当額)	前年同期比
全体	BYN 874 億	(USD 323 億強)	▲ 4.2%
工業	BYN 813 億	(USD 301 億弱)	▲ 5.2%
農業	BYN 90 億	(USD 33 億強)	▲ 3.0%
小売	BYN 320 億	(USD 118 億強)	▲ 0.4%
卸売	BYN 656 億	(USD 243 億弱)	▲ 14.5%
外食	BYN 190 億	(USD 70 億強)	1.7%

(7月18日、22日 国家統計委員会)

【その他】

●7月20日現在のCOVID-19ワクチン接種状況

(1)総数

2回接種済み	6,400,000人以上
18歳以上でブースター接種済み	1,200,000人以上
12歳から17歳で2回接種済み	144,000人以上

(注:2022年1月1日現在のベラルーシの総人口は9,255,524人)

(2)職域別の接種状況

医療	99.4%以上
教育	85.8%以上
社会福祉	91.0%以上
小売、外食、文化・スポーツ施設、水道光熱	84.1%以上
公共交通	82.1%以上
生活関連サービス	88.0%以上
60歳以上・慢性疾患のある人	88.4%以上

(7月25日 共和国衛生・疫学・公衆健康センター)

(了)